

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	3871400317		
法人名	株式会社 新風会		
事業所名	グループホーム 昴星		
所在地	西予市城川町下相693番地		(電話) 0894-82-1027
管理者	高田 富美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 12 月 11 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 21 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 13.2 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	140 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 30 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	5 名	要介護 2	1 名
要介護 3	7 名	要介護 4	4 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 87.5 歳	最低 80 歳	最高 107 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の町の高台に建ち、眺望が素晴らしいホームである。洋館風の3階建ての2・3階にホームがあり、1階はデイサービス部門となっている。運営法人は南予地域に多くのホームを有し、それらのホームは常に交流・連携しながら相互のサービスの質の向上に努めている。職員は、一人ひとりの思いを大切にし、できることを見極め、個々のペースを尊重しながら支援している。ホームは、地域の祭りや文化祭に参加したり、小・中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの納涼祭に地元の方を招待する等、地域との交流を深めるよう努めている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の評価後、理念を法人共通のものからホーム独自の理念に改め、分散していた記録を一目で分かる様式にまとめ、運営推進会議の参加者がより多くなるよう努め、居室に馴染みの物を色々と配してより居心地よく過ごせる工夫をする等の改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

運営者、管理者、職員は評価の意義を理解した上で、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員は、自己評価が日々のケアの振り返りになると感じている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

会議ではホームの状況や行事、外部評価等について報告したり、利用者の思いを聴いたり、地域の状況を話してもらうなどしている。そして、それらに対する質問や意見が出され、必要時には検討している。会議での意見や地域の情報をサービス向上に活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の意見は来訪時や家族会等で聞き、ホームの運営に反映させている。苦情相談窓口は内部、外部ともに文書に明記し、家族にも説明している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

地域の文化祭や運動会に参加したり、ホームに牛鬼や鹿踊りがやって来て共に秋祭りを楽しんだり、小・中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの納涼祭に地元の方を招いて交流を図る等、地域との交流に努めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム昴星

(ユニット名) 第一ユニット

記入者(管理者)
氏名 高田 富美

評価完了日 平成 20 年 11 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の介護理念を作っている。誰もがいつも目に付くようにと玄関と居間に掲示し、理念の啓発に努めている。また年頭にスタッフ其々が目標を立て、それに向かって支援できるように努力している。 (外部評価) 全職員で話し合っつくりあげた、ホーム独自の分かりやすい理念であり、地域の中で利用者がその人らしく暮らしていくことを支える理念となっている。理念は玄関や居間、事務室の見やすい所に掲示し、常に意識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に基づき取り組んでいる。台所やトイレにも貼り絶えず目に付くようにしている。 (外部評価) 一人ひとりが、ゆったりと家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごせるよう、理念を念頭に支援している。その人らしく暮らしてもらうため、起床時間に合わせて朝食を準備したり、畑仕事の経験者が収穫を楽しめるようにする等、理念の実践に向けて取り組んでいる。	※	今後も機会あるごとに理念の理解や、日々の実践について話し合って行きたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族には、入居時に理念について十分説明し理解は得ていると思っている。また運営推進会議や家族会などでも話している。	※	ホームから家族向けの新聞にも記載し、さらに理解を得るようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームが高台にあり、日常的に歩いて行ったり来たりは出来にくいですが、常時オープンにしていつでも入っていただけるようにしている。入居者と一緒の散歩や残飯捨てに行った折など近所の人に会えば挨拶や立ち話をし交流している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 秋祭りには牛鬼や鹿踊りをホームの庭で披露してもらい、入居者の笑顔が見られている。小学生の勤労体験学習や中学生研修の受け入れをしている。文化祭や運動会などにも出かけ地元のかたがたとの交流をしている。 (外部評価) 地域の文化祭や運動会に参加したり、ホームに牛鬼や鹿踊りがやって来て共に秋祭りを楽しんだり、小・中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの納涼祭に地元の方を招いて交流を図る等、地域との交流に努めている。	※	特に小・中学生の訪問は利用者の笑顔が違う（心から嬉しそう）ように思える。機会を作り保育園児との交流をしたいと思っている。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方の相談には分かる範囲で答えている。デイサービスでの交流を図っている。	※	職員は地域の行事に参加している。今後さらに交流できるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価には全員が取り組み、意義の理解は出来ていると思っている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解した上で、全職員で評価に取り組んでいる。職員は自己評価が日々のケアの振り返りになると感じている。前回の評価後、理念を再検討し、記録用紙を一目で分るよう改め、運営推進会議の運営を工夫し、心地よい居室づくりに努める等の改善に取り組んでいる。	※	自己評価をして気づいたこと、また外部評価で指摘を受けたことを改善して行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 入居者からの意見や個人的な相談なども本人希望で行い、納得のいく結果が得られた。サービスの実際は委員さんすべてが現場で見られ理解していただいているものと判断している。会議での話し合いで出たことは検討しサービスの向上に生かしている。今回の評価への取り組みについては11月開催の会議で報告予定である。 (外部評価) 会議ではホームの状況や行事、外部評価等について報告したり、利用者の思いを聞いたり、地域の状況を話してもらっている。そして、それらに対する質問や意見が出され、必要時には検討している。会議での意見や地域の情報をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者は介護保険の訪問調査に再三来て頂いているので、職員や入居者とも気さくに話が出来る関係にある。介護相談員の訪問も年4～5回あり、入居者と話しサービスの向上のための助言を頂いている。 (外部評価) 市担当者に介護計画について相談したり、市担当者が認定調査の関係等でホームを訪れるなど、相互に行き来する機会があり、共にサービスの向上に取り組んでいる。地域包括支援センターの職員とも話し合う機会がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や講演会には、繰り返し参加しないとイケないと思いつつ、実際は数回参加しただけで機会を逃している。いつでも見ることができるようファイルにしている。今のところ必要性は感じていない。	※	今までにホームで勉強会をしたが、難しく理解できていない。今後も制度や意義の理解が得られるように勉強会を行い、研修等にも参加する機会を作りたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の立場でものを考え判断し、やさしく接している。身体的な虐待は絶対ないが、言葉での虐待や、虐待と気づかずにケアすることがないように指導している。(スタッフの都合でする行為など)	※	高齢者虐待法関連については、学ぶ必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前訪問や入居契約の際、本人や家族の不安が残らないように十分に時間を取り説明をしている。またその際何でも聞いて下さるように伝えている。	※	入居者・家族の疑問や不安がそのまま伝わるように、入居後の信頼関係作りをしている。家族の面会時や電話を通じ、細々したところまで情報交換している。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 市役所の職員や介護相談員、運営推進会議の場でもそういう機会を設け、入居者が表出できるようにしている。職員はいつでも聞ける体制にある。その結果は申し送り、職員会議で話し合い対応している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時やホームからの新聞で、暮らしぶりの報告は出来ている。健康状態や金銭管理については、電話で詳細に伝えている。また面会時に個人別の金銭出納帳の確認をお願いしている。(現金の預かりには、不安を与えないように尾預り証を発行している) (外部評価) ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時やホーム便りで報告している。ホームで預かった金銭は個別の出納帳を作り、家族の来訪時に随時チェックしてもらい、サインをいただいている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居契約の時に、苦情申し立てできる窓口の説明をしている。また玄関にご意見箱の設置をしている。家族の不安が残らないように十分に時間を取り説明をしている。頂いたご意見やご要望は如何なる時も謙虚に受け止め、運営に反映する。 (外部評価) 家族の意見は来訪時や家族会で聞き、ホームの運営に反映させている。苦情相談窓口は内部、外部ともに文書に明記し、家族にも説明している。	※	ご意見箱には、気軽に何でも行っていただけるような環境作りをしなければいけないと考えている

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回総務での管理者会議があり、同月その事を施設のカンファレンスで伝えている。2・3階の職員全員参加で情報の共有をし、その場で自由に発言でき意見交換も行っている。また全員が見ることができるよう情報交換ノートをおいて活用している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者の急変時や行事等には、勤務者を増員している。管理者が勤務中に出かけ（事前調査など）不在のとき残業をお願いすることもある。	※	今後も状況に応じた調整を行う。また職員の希望も取り入れながら、入居者にとって万全な体制になるように工夫したい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 2・3階の移動のとき、早めにその階の訪問をしなじみの関係を作っている。普段から2・3階の交流があり、入居者・職員ともに顔なじみである。 (外部評価) 運営者は職員の異動や離職を最小限にするよう努力している。ユニット間の異動時は早めに職員が異動先を訪ね、顔馴染みになるよう努めている。日頃からユニット同士の交流があるため、異動時の利用者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を知らせ、希望者は参加できるように配慮されている。費用の負担もある。ホームでは希望者の調整をし参加を促している。資格取得することで評価されることもある。 (外部評価) 運営者は、管理者や職員の育成のためには研修が重要と考えており、外部研修を奨励し、また同系列合同の学習会を実施している。職員は随時外部研修に参加し、受講内容を他の職員にも伝えている。ホーム内では単発的に勉強会を行い、日々の支援の中で職員同士が学び合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の同業者に入居者を伴って訪問するなどの交流はある。ホームの質の向上に向けた勉強会などは行っていない。管理者の会議は月に一度ある。	※	他事業所の行事や当ホームの行事にお互いが参加し連携は取れている。地域以外の事業所からの訪問もあり、刺激になっている。
			(外部評価) 利用者主体でのホーム同士の交流はあるが、日々の支援や職員育成に役立つ交流は行われていない。同系列の合同学習会や管理者同士の話し合いは行われているが、他法人の同業者との勉強会等は実施されていない。	※	サービスの質の確保のためには、同業者、特に、他法人のホームとの交流や連携が不可欠であるため、地域の他ホームとの具体的なかつ実践的なネットワークづくりや勉強会等を行うことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社をあげての忘年会を行い親睦を図っている。ホームでは各階ごとに食事会をかねた慰労会を行っている。職員の悩みや抱える問題の相談に乗り、解決できるように努力している。	※	無理の行かないようにリラックスできる時間を設け、職員間の小さなトラブルが起きないようにしている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 会社独自の自己評価表を使い、各自それを行うことで、本人の長所・短所が見えてくる。よい所は褒め悪いところは、努力するように励ます。	※	職員のよいところをさり気なく皆に伝えることで、認められたという自身につながるように配慮している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査時に、本人・家族の話を十分に聞くようにしている。また相談に応じる場合にも家族関係や生活歴など聞き、入居までに信頼関係が結べるように何度も話せる機会を作っている。	※	少しの不安でも払拭できるように、十分話し合いたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査時に、本人・家族の話を十分に聞くようにしている。また相談に応じる場合にも家族関係や生活歴など聞き、入居までに信頼関係が結べるように何度も話せる機会を作っている。	※	少しの不安でも払拭できるように、十分話し合いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居後状態の改善が見えたとき、あるいは状態の改善が見込めたときは、速やかに報告し他のサービスの利用を提案している。(他の施設入居)	※	今後も必要とされるサービスを見極める努力をし、本人・家族の求めるニーズに沿った対応が出来るように努めたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に、何度も来て頂き、ホームの様子を感じていたできるようにしている。本人が来れない場合でもみんなが安心できるように見学を勧めている。 (外部評価) 利用者が安心して穏やかに過ごせるよう、入居前に利用者や家族がホームを訪問、見学し、職員や入居中の利用者、ホーム全体の雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は人生の先輩と尊敬しながらケアに努めている。本人が若い頃得意とされていたことや、苦勞して克服されたことなど理解しそれを会話の中に時折いれ、教えていただいている。 (外部評価) 職員と利用者は散歩、リハビリ体操、歌を唄う、花の世話、おやつ作り、料理、食事の後片付け、洗濯物干し等を一緒に楽しみながら行っている。そして、利用者から優しさや労わりの心の大切さを学んでいる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人・家族の訴えを十分に聞き、共感し、共に支えていく関係作りをしたい。状況により家族に一日滞っていたり、食事を共にし、意見交換ができ共に支えている関係が築けている。	※	日常の生活ぶりを見て頂くことで、職員と本人のかかわりや状況の理解が出来、より深い信頼関係作りに結びついている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 今までの生活歴や習慣などを知り、面会時や電話で家のことを心配している様子を報告している。面会を本人と共に喜び、帰えられる時は安心して頂けるように笑顔で玄関まで送るよう努力している。	※	本人の希望の実現は叶わないことの方が多いが、家族の意向との折り合いをつけるべく努力をしている。それにより一時帰宅や外泊が出来るようになった。家族に逢いに職員と一緒にいくこともある。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の思いの表出はあまりない。希望があれば可能な限り出かけるようにしている。ディサービスを利用している馴染みの方々との交流は図っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) リハビリを取り入れた体操や、風船バレー・歌などのレクリエーションで、一緒に楽しむようにしている。	※	難聴者が多く、利用者同士の会話が成立しないことが多い。職員が媒介者となり、楽しく生活できるようにしたい。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他施設に行かれた家族から、来年の納涼祭には「連絡が欲しい是非来たい」との申し出があった。また退去された家族から入居申込者の紹介があった。退去後もイベントのご報告はさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自由生活していただくことでその人らしくを基本にしている。意思の疎通が出来ない方に対しては、笑顔や表情で判断し、出来る限り穏やかな生活が営めるように支援している。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は利用者の表情、会話、行動等から把握し、その思いが叶うように心がけている。	※	いつの時も本人とのかかわりの中で、何を望んでいるのかを把握し、今後も支えあいたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 担当ケアマネや、事前訪問、本人・家族とのかかわりで出来ていると思っている。	※	継続してより詳しく情報の収集はしなければいけないが、プライベートな所への踏み込みもあるので、職員間でそれを共有し、注意しながら支援しなければと思う。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 本人の持てる力を十分に発揮できるように支援している。状態に合わせ無理の行かないように、他にできることはないかなど声かけし、表情を察知し支援している。	※	職員間の観察力を養い連携を図りたい。(出来ること・出来ないことの見極め)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回のケアカンファレンスを開催し意見を述べたり、情報の共有や、職員間で情報交換し家族の意向を取り入れた介護計画を考えている。 (外部評価) 月1回のケアカンファレンスで、利用者や家族の思いを反映しながら、職員同士が話し合って介護計画を作成している。時には家族にも話し合いに加わってもらい、計画作成に役立てている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヵ月毎のモニタリングを行いケアプランの見直し、更新時や身体状況に変化に応じて適宜現状に即したプランに変更している。家族の日程の調整ができれば意見交換の場を増やしたい。 (外部評価) 月1回のケアカンファレンスでチェックし、必要時には見直している。また、利用者や家族の状況に変化が生じた場合等はその都度見直している。3か月に1回、計画のモニタリングを行い、現状に合うよう見直すことにしている。	※	今後も本人・家族を交えての話し合いの場を設け、様々なアイデアも取り入れ、現状に応じたプランにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・業務日誌・利用者個別の申し送りノートなどの記録を行っている。勤務交代時に申し送りを行情報の共有をしている。	※	介護記録の改善を行い、介護記録に反映できている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の面会時には勤務する職員が、ケアに対する要望などを聞いている。薬の副作用による減薬の提案を主治医に述べたり、受信の希望を聞いたり、買い物、自宅へ帰る支援等を行っている。 (外部評価) 利用者の急な受診、冠婚葬祭、墓参り、家族のホーム内での宿泊等、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防や・演芸ボランティア、小・中学生の研修などがっている。	※	消防や学校等は輪が広がりつつある。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性があれば、他のサービス関係者との話し合いに対応する。今までには在宅復帰の方のために支援した。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) ホームは介護予防対応しているため、支援センターとは連携し協働していきたいと思っている	※	運営推進会議等で今後も情報交換を行い、共同できる体制にしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望する医師による診察が受けられるように、受診介助はおこなっている。また病状により本人・家族の希望する医師の受診（病院）が受けられるように受診介助を行っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診には多くの場合、職員が付き添うことにしている。また、運営者である医師の往診が月に2回行われている。利用者や家族の希望により、市の健康診断を受けることも可能である。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医に状態の報告をを行い、(往診時にも日々の変化の報告を行っている)		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価)		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、頻会に面会に行き安心していただくようにしている。医療機関との情報交換により連携をとっている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に本人・家族の意向を聞き、医療連携体制の同意を得ている。その時の状態により適宜、主治医や家族と相談しながら方針を共有している。そのときに考えは変化することも予測される。決め付けた対応ではなく柔軟に考えていく。 (外部評価) 重度化や終末期の対応は可能であり、このことを早い時期から利用者や家族にも説明し、話し合っている。看取りのマニュアルがあり、それに沿って実際的な対応を行うことにしている。医療的な支援が必要な場合は、訪問診療や訪問看護で対応している。	※	身体状況に応じて、本人・家族の気持ちの変化がある場合もあり、利用者の尊厳を第一に考えながら何度も話し合いを行う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) チームとしての支援体制は整っている。今までの経験を生かし、今後も変化に備えた準備を行いたい。利用者・家族の意向を第一に考え、家族とともにチームで取り組んでいく。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居前に十分話し合いを行い、本人のことを理解することで以前からの知り合いのように接することができ、安心されている。今まで使用していたものや馴染みの物を持ち込むことで安心が得られる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 十分理解はしている。個人情報にかかわる記録等が他人の目に触れないように配慮している。ベッドには長めのカーテンを設置し、廊下から丸見えにならないように配慮している。 (外部評価) 利用者の着替えや排泄時等に配慮して居室のベッド脇にカーテンを設置したり、食べこぼしをさりげなく片づけるなど、一人ひとりの誇りやプライバシーに留意している。記録類は個人情報保護に配慮し、事務室の戸棚に保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望や思いを表出できるように、分かる力に応じた説明をしている。自己決定できない場合十分に時間をとり、選択肢を設け表情などで判断することもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床はその人のペースで行い、一人ひとりのペースを大切にしている。声かけにより、希望を聞き受け入れている。 (外部評価) 利用者によって起床時間や朝食時間は異なるが、それぞれに合わせた支援をしている。また、ゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守り、散歩したい時に一緒に出かける等、一人ひとりのペースを大切にした対応をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 洋服を選択することは楽しみの一つであり、尊重している。できない方は職員が何点か選びその中から選んでもらう。理・美容院を希望される方は職員や家族が同行する。ほとんどの方が(家族を含む)職員による散髪を希望されている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日や節季毎に希望の献立を取り入れている。出来る方は調理の下ごしらえや配膳・後片付けなど一緒にしている。芋料理が多く入居者には好評である。 (外部評価) 利用者の好きなものを取り入れた献立をたて、食事を楽しめるよう心がけている。時間がかかっても自力で食べられる利用者を見守り、食べこぼしの場合はさりげなく片づける等の支援をしている。利用者と職員と一緒に食事を作り、同じ食事をとり、後片付けをしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望があり、身体的に問題のない方は楽しめる環境にある。現在、持込はないが、いつでもOkですと支援する体制であることを伝えている。	※	外出・外泊のときお酒を楽しんでこられることがある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 本人の希望時や表情を察知し、トイレ誘導やオムツの取替えを行っている。本人の身体機能に合わせた支援している。パットがきちんと当たっているか使用時にさりげなく確認している。	※	尿意がないにもかかわらず神経質になり、夜間の失敗を恐れ安眠できない方に、オムツの提案をした結果、安心してよく休まれるようになった。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 要望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴嫌いな方もある。最低週2回は入浴できるように支援している。 (外部評価) 入浴時間は基本的に昼間の時間帯としているが、希望があれば朝風呂も夜間の入浴も可能としており、入浴を楽しめるよう柔軟に対応している。	※	夜間帯の入浴も可能だが、現在までに希望者はいない。明るいと時の入浴は贅沢だと捕らえ、良い身分になったと機嫌が良い。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 声聞き取れるようにドアを少し開けておくことで、安心して休まれている。共有スペースで休まれる方もあり(昼寝)自由に過ごされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 簡単な家事や、プランター菜園への水やりなど職員と一緒にやっている。それらを行うことで役割を持てる達成感につながっている。 (外部評価) 散歩、買い物、車での遠出、習字、リハビリ体操、デイサービスとの交流、芋掘り、菜園の草ひきや水やり、調理、鯉の餌やり、洗濯物を干し、洗面台の掃除等、一人ひとりの楽しみごとや役割を支援している。	※	秋の恒例行事になってきた芋掘りを今年も行い、収穫を喜ばれた。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近所への買い物など、本人がお金を持ち出かけている。全員の方から一定額を預かり管理している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望に沿って散歩や買い物の支援をしている。希望日に買い物ができるように支援している。 (外部評価) 一人ひとりの希望により、近所を散歩したり、近くの道の駅やコンビニへ買い物に行ったり、行事で花見や紅葉狩りに出かけたり、地域のごみ置き場にごみを持って行く等、戸外に出かける機会を多くもてるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族との外出は希望通り行えている。数ヶ月毎に遠出をし、普段いけないところに行っている。うちへ帰りたい希望の人は、スタッフが同行し機会を作っている。	※	今後も希望がかなうように支援したい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望は、家族の居られる時間帯にできるように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会の方への行き届いた接遇はできている。職員は気持ちよくお迎えしている。帰り際には感謝の気持ちを述べてくださっている。	※	顔なじみになり、気持ちよく来ていただいている。お茶や、おやつを提供し一緒に楽しんでもらっている。会話の中に入れていただき、交流を深めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 命にかかわる危険を回避するため、やむを得ず行っている。状況が改善できればいつでもやめたいと思っている。制度への理解はしている。	※	職員の制度への理解はできているが、さらに勉強したい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理念にも掲げているように束縛しないケアを心がけている。ホーム玄関のドアを開けるとチャイムが鳴り、自由に出入りができるようになっている。その音で確認している。 (外部評価) 運営者及び職員は鍵をかけないケアの意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。なお、玄関にはチャイムが設置されている。	※	夜間の行動障害がある場合のみ、玄関に施錠している。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 出入りするのに皆の集合している場所を通るため、日中の居場所確認は見守り等で行えている。夜間は巡視することで、所在・安全確認している。	※	日中、交流のため1・3階に行くことがあるが必ずスタッフが同行している。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 灸をされる方があり、フロアで目の届くところでいただいている。線香や燃えカスの始末にもさりげなく気を配っている。何が危険なものになるか分からないので、気配り目配りしている。	※	事故につながらないように、薬や包丁などの保管には十分注意したい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 行動障害のある方・転倒や誤嚥の恐れのある方についての話し合いは家族を交えて行っている。一人ひとりの状態に応じた取り組みはできている。	※	職員全員が対応できるわけではなく、不安はある。何度もシュミレーションし、万全の対策を考えたい。カンファレンスでは取り上げ話し合いをしている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命講習は定期的に行っている。マニュアルを事務所に置きいつでも学べる状態にある。	※	応急手当や初期対応の仕方の訓練を継続して受け、緊急時に備えたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の方々や消防との連携が取れている。定期的に避難訓練を行い災害時に対応できるようにしている。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行い、夜間想定での訓練も実施している。大雨で裏山からの浸水があった時には、土嚢積み地域の方が手伝ってくれることはあるが、災害時の日常的な協力体制は確立していない。	※	様々な災害に備え、対策を講じている。 職員のみでの対応の限界を認識し、日頃から地域との連携・協力体制を築いておくことが望まれる。運営推進会議や地域との交流を通して、地元住民や自主防災組織の協力が得られるよう話し合い、一緒に訓練を行う等の取組みを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居契約時に説明を行い、理解していただくようにしている。現状の説明をし、予測し得るリスクについて一緒に相談し対策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックを行い、変化があり必要と思われるときは医療機関に報告を行い対応している。また申し送りの際、正確に伝達し情報の共有をし手いる。	※	今後も全員が状態の変化に気づけるように、観察力を養う訓練を行う。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服・外用薬ともに説明書を置き、職員が確認することができるようにしている。薬事辞典を使用し薬の効能や副作用を学んでいる。	※	副作用の症状などわからないことも多い。様子がいつもと違うなど変化には敏感に対応できるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 職員は自分の経験からも便秘が及ぼす影響は理解できている。新鮮な野菜や麦、雑穀、芋、牛乳を使った献立をたて便秘をしないように配慮している。水分の摂取量にも気を配り、腸の働きをよくするため体操も行っている。	※	
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアはほとんどの方が習慣になっている。できない方や確認の必要な方は職員が対応している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量はコップに入れた量を測り確認できている。ミキサー食の場合や飲み込みの悪い方は、白湯やおつゆで調整している。食事中はもちろん、10時・15時の野おやつ時や、入浴後の補給は必ず行っている。 (外部評価) 食事の摂取量や水分量は毎回把握している。自力で食べる利用者を温かく見守り、食事を中断した方にはさりげなく促し、利用者の状態に合わせて食態を工夫する等、一人ひとりの状況や力量に応じた支援をしている。職員が献立委員会をつくり、栄養バランス等をチェックしている。	※	1日の水分摂取量が一目でわかる表を作成したが、なおよいものに改善したい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症のマニュアルを作成している。日常の掃除では、次亜塩素酸ナトリウムを使い、床や手すりその他気になるところの清掃に気を配っている。持ち込まない・持ち帰らないの精神で手洗いを励行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾・台布巾にいたるまで、毎日消毒している。時には天日干しも行い、衛生面の気配りをしている。食材は毎日配達され、在庫が少なく管理しやすい。ホームで収穫する野菜も豊富にあり、新鮮なものが使用できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 外部の方や、デイサービスの利用者も頻繁に出入りされている。不愉快な気分にならないよう毎日の掃除には配慮している。水はけが悪く雨の多いときには、ホームに出入りされる方々に迷惑をかけている。	※	関係機関へ相談はしているが、会社では裏山に池を作り、水が一度に仕掛けてこないような対策を立てている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夕日の眩しさにはカーテンを引き、対策をしている。共用部分でゆったり過ごせるように、読みやすい本を置いている。また職員が持ち寄る花々で季節感を味わうことができる。 (外部評価) ホーム内は明るくゆったりして、くつろげる雰囲気がある。居間は、畳の間に炬燵、大きめのテレビ、見やすい時計やカレンダーがあり、季節の花、行事の写真や習字等を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。台所、浴室、トイレは清潔感があり、気になる匂い等はない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 思い思いの場所で寛ぐことができている。居間では井戸端会議のようなこともたまにある。廊下の端に椅子を置き、寛いだり休息の場所になっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真や人形などを飾り、また使い慣れた食器や毛布を持ち込んでいただいている。 (外部評価) エアコン、ベッド、タンス等が備え付けてあり、その他、利用者が使い慣れた寝具、時計、お気に入りの人形やぬいぐるみ、写真等を持ち込み、居心地よく過ごせる部屋となっている。	※	本人・ご家族との話し合いで、仏壇や神棚などの設置ができることをお伝えしているが、今のところない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 窓を開けたり、換気扇を回すなどし空気のよどみをなくしている。一人ひとりに応じた体感温度での対応をしている。個人個人の居室のエアコンは使わず、廊下のドアを透かしておくなど工夫している。(冷えすぎ予防)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物全体がバリアフリーであり、廊下・トイレ・浴室には手すりが設置してあり、本人の能力に応じた使い方ができる。持てる力やわかる力を使い、できる限り自立した生活ができるように支援している。	※	今後もできる限り個別に対応し、機能低下を最小限にしたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 場所の認識ができるように、名前を大きく書いたり工夫はしている。混乱や失敗にさりげなく対応し、話題を変えるなどしている	※	混乱や失敗の程度は段々と深刻になってきているが、その場での対応に勤めたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 物干し場として利用もあり、本人とのコミュニケーションの場として使用している。ベランダ菜園もあり水遣りなど管理は楽しみの一つになっている。冬場は日向ぼつこの場所に変わり井戸端会議的なこともある。庭に小さな畑があり、ねぎを取りに一緒に行くこともある。	※	ホームの外にも畑が持ち、季節の野菜を作っている。芋ほりは恒例行事となりつつある。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	日々の会話の中から聞き出し、どのようにしたいのか希望や思いをつかんでいる。意思の疎通が出来ない方もあるが、何時も言われる願いは理解できている。叶えられる希望は実現できるように援助している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員と一緒に食事の準備をしたり(下ごしらえ)おやつと一緒に食べるなどゆったり過ごす時間はある。フロア中央に食卓があり、居間にはコタツがあり入居者が自由に利用できる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	読書や昼寝など本人のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	症状の進行した方が多いが、状態に合わせた支援が行えている。今までの経験や生活歴を把握しやってみたいことも取り入れている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きたい希望者は全員、行きたくない利用者も声かけにより出かけることが出来ることもある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な往診や毎日医療機関からの電話にて状態に変化のある人について報告をしている。の状態を利用者・家族の希望の医師が主治医になり、医療機関との連携は取れている。また他科への受診は介助にて希望のところに行くことができています。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すぐには応じる事が出来ないこともある。待ついただく場合は理由を述べ理解していただいている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	何でも話していただき、相談のあるときに解決できるように、不安や困りごとが続かないようにしている。信頼関係は構築できていると思っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	全体では数日毎に来ていただいているが、地域の方は立地条件が悪いのかあまり見えない。デイサービスを利用した交流は毎日ある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	大雨のときに地域の方に声をかけてもらったり、無料の踊りや他の演芸の披露を頂くなどつながりは深まっている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間の人間関係もよく、介護に対して行き詰った場合職員同士で話し合い解決している。入居者との毎日が少しでも楽しくなるように考え働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思の疎通が出来ない方もあり難しい事もあるが、会話の中でも感謝の思いをいただき、おおむね満足していただいていると思っている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時の様子や話しぶりなどでそのように感じる。またこちらからの問いかけに対し、要望を言われる方がいない。家庭介護は難しい方が多くここで安全に過ごせることに安心されている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

季節行事(花見、七夕、納涼祭、芋ほり等)地域行事(運動会、地方祭、文化祭等)に入居者が積極的に参加できるよう企画し実行している。昴星の介護理念を掲げていることを常に意識し、特に家族や方々との交流が今以上のよい関係になるように努力していきたい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム昴星

(ユニット名) 第二ユニット

記入者(管理者)
氏名 富永 元気

評価完了日 平成 20 年 11 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 運営理念は見やすい位置に掲示している。また、各フロアでの理念も見やすい位置に掲示している。 (外部評価) 全職員で話し合っつくりあげた、ホーム独自の分かりやすい理念であり、地域の中で利用者がその人らしく暮らしていくことを支える理念となっている。理念は玄関や居間、事務室の見やすい所に掲示し、常に意識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 運営上の方針・理念は、スタッフ一人ひとりが信念を持って取り組んで貰える様に伝えている。又、新入社員が入った際は、管理者より説明を行っている。 (外部評価) 一人ひとりが、ゆったりと家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごせるよう、理念を念頭に支援している。その人らしく暮らしてもらうため、起床時間に合わせて朝食を準備したり、畑仕事の経験者が収穫を楽しめるようにする等、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 家族や地域の人々に理解して頂ける様に家族会を年に数回行ったり、運営推進会議で運営役員の方々に理解して頂ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 施設が建っている場所が、気軽に立ち寄ってもらえる様な場所がない為、施設行事の際にチラシを配布するなどして立ち寄ってもらえる様に努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 小学校や中学校の職場体験を受け入れたり、地域の方々も参加出来る様な施設行事（納涼祭など）を行うなどして地域との交流は出来ていると思う。 (外部評価) 地域の文化祭や運動会に参加したり、ホームに牛鬼や鹿踊りがやって来て共に秋祭りを楽しんだり、小・中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの納涼祭に地元の方を招いて交流を図る等、地域との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合いの場が持てる様に努めてはいるが地域貢献には至っていないと思われる。しかし、問いかげがあれば分かる範囲で返答している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の評価で指摘を受けた箇所を改善する様に努めているが、まだ改善が出来ていないところがある。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解した上で、全職員で評価に取り組んでいる。職員は自己評価が日々のケアの振り返りになると感じている。前回の評価後、理念を再検討し、記録用紙を一目で分るよう改め、運営推進会議の運営を工夫し、心地よい居室づくりに努める等の改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、施設での難関行事の報告や参加の声かけを行っている。また、外部評価への協力を依頼し結果報告を行っている。		
			(外部評価) 会議ではホームの状況や行事、外部評価等について報告したり、利用者の思いを聞いたり、地域の状況を話してもらっている。そして、それらに対する質問や意見が出され、必要時には検討している。会議での意見や地域の情報をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や介護保険の更新の際の認定調査などの必要な事意外での接点は少ないと思う。しかし、デイサービスが併設されているので支援センターの担当者やケアマネジャーとの交流はあると思う。		
			(外部評価) 市担当者に介護計画について相談したり、市担当者が認定調査の関係等でホームを訪れるなど、相互に行き来する機会があり、共にサービスの向上に取り組んでいる。地域包括支援センターの職員とも話し合う機会がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護や成年後見制度については、まだまだ勉強不足な為、今後も勉強会を行いたいと思う。また、研修会などがあれば積極的に参加したいと思う。	※	グループホームでの勉強会で行った事があるが、制度の内容が難しく理解が出来なかった様に見受けられる。今後も制度に関する研修会などがあれば積極的に参加したいと思う。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ一人ひとりの責務や義務を再確認する為にも勉強会を行っている。また、利用者の状態を把握する為にも利用者ノートやスタッフ用送りノートを作成し目を通す様にしている。	※	高齢者虐待防止関連法については、職員全員が知っておかなければならない事なので、勉強会や研修会に参加し、大急ぎで学ぶ必要があると思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査に利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね説明を行っている。再度、入居契約時に説明を行い、十分に理解・納得していただいた上で契約を取り交わしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見や不満、苦情があった時は、職員間で話し合い改善できる事は行っている。運営推進会議等に利用者代表として参加された時に意見や不満、苦情などを話してもらえる場を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 当施設で発行している新聞で日々の暮らしぶりの写真を掲載し、その月に行った行事や次の月の行事の予定等を掲載してご家族宛に郵送している。また、面会時に金銭出納帳を確認して頂き、金銭の流れを報告している。 (外部評価) ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時やホーム便りで報告している。ホームで預かった金銭は個別の出納帳を作り、家族の来訪時に随時チェックしてもらい、サインをいただいている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 当施設の玄関に意見箱を設置したり、面会時や家族会等で意見交換を行っている。その際に話し合った事柄を記録に残し、運営の反映に努めている。 (外部評価) 家族の意見は来訪時や家族会で聞き、ホームの運営に反映させている。苦情相談窓口は内部、外部ともに文書に明記し、家族にも説明している。	※	意見箱を設置してはいるものの、あまり意見等が投函されていない。もっと意見箱を活用して頂けるような環境作りをしなければならないと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案を月一回の業務カンファレンスの中で発言してもらったり、発言してもらった事柄について意見交換を行うなどの場を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務調整は、勤務交代を行う職員間で話し合い勤務に支障がないように行われている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動等は現在、半年に一度管理者と相談している。その際、異動する事になった場合前もって、職員や利用者に伝える事によって、混乱させないように努めている。 (外部評価) 運営者は職員の異動や離職を最小限にするよう努力している。ユニット間の異動時は早めに職員が異動先を訪ね、顔馴染みになるよう努めている。日頃からユニット同士の交流があるため、異動時の利用者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会や介護フォーラム等が開催される時は、参加希望者を募り参加している。また、参加にかかる費用等の負担はグループホームで行っている。 (外部評価) 運営者は、管理者や職員の育成のためには研修が重要と考えており、外部研修を奨励し、また同系列合同の学習会を実施している。職員は随時外部研修に参加し、受講内容を他の職員にも伝えている。ホーム内では単発的に勉強会を行い、日々の支援の中で職員同士が学び合っている。	※	参加希望者を募るが、希望者が集まらない事もある。その場合、管理者が参加者を指名する事もあるので、職員の能力を見極めて、職員に合った研修会や介護フォーラム等への参加を促す様に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 社内の系列のホームとの交流は、月一回開催されているが、管理者やホーム長だけで職員間では交流する機会があまりない。	※	系列のホームの外出時に立ち寄ってもらった際などでしか職員間の交流の場が設けられていない為、今後はこちらから系列のホームに立ち寄るなどし、職員の交流の場を持てる様に努めたい。
			(外部評価) 利用者主体でのホーム同士の交流はあるが、日々の支援や職員育成に役立つ交流は行われていない。同系列の合同学習会や管理者同士の話し合いは行われているが、他法人の同業者との勉強会等は実施されていない。	※	サービスの質の確保のためには、同業者、特に、他法人のホームとの交流や連携が不可欠であるため、地域の他ホームとの具体的かつ実践的なネットワークづくりや勉強会等を行うことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員との食事会や飲み会を行ったりし、職員のストレスの軽減に努めている。また、会社をあげての忘年会を行い親睦を図っている。	※	職員間のトラブルが起きないように、リラックスできる時間を設けるなどしている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 自己評価を行う事で、良いところ・反省すべきところを見極めて改善できる様に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりにかかわる時間を密にし、利用者個人個人の訴えを聞く時間を密にしている。また、かかわり委員会を作り、利用者からの訴えを改善するように努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時にご家族から現在の状況の報告を行ったりし、ご家族からの希望等を聞き、その希望に副える様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時に、ご本人・ご家族に必要なサービス等がある場合は、ご本人・ご家族と共に相談し対応している。	※	
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) グループホーム入居の際は、ご本人・ご家族に繰り返して訪問し見学してもらうことで不安を和らげ、自然に馴染んで入居できるように努めている。 (外部評価) 利用者が安心して穏やかに過ごせるよう、入居前に利用者や家族がホームを訪問、見学し、職員や入居中の利用者、ホーム全体の雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活暦を参考にして、洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付けを手伝ってもらったりと、今までされていた事を職員と一緒にやるなどして支えあえるように努めている。 (外部評価) 職員と利用者は散歩、リハビリ体操、歌を唄う、花の世話、おやつ作り、料理、食事の後片付け、洗濯物干し等を一緒に楽しみながら行っている。そして、利用者から優しさや労わりの心の大切さを学んでいる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 共に支えていく関係を築く為に、ご本人・ご家族の訴えを聞き、ご家族に出来るだけ長い時間グループホームと一緒に過ごしてもらって、現在の心身の状態を把握していただいて意見交換を行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時やお電話があった際に、グループホームでの生活の様子を報告している。面会時には、自室にてゆっくりとお話して頂ける様努めています。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、外出できる時は外出している。また、デイサービスに馴染みの人が来ている時は交流を行っている。	※	本人の馴染みの場所との関係は、外出される方は行えているが、外出をされない方は関係が途切れてしまう可能性もあるので、今後は外出されない方も外出する気持ちになるように支援したい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 毎朝、リハビリ体操を行ったり、食後の食器を運んで頂いたりしてここに居る皆様方が、「もう一つの家族」のように過ごされている。	※	身体的問題として、難聴の方が多いため会話が成り立たない事もある。その時は、職員が間に入る様に努めている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居（他の施設へ行かれたりなど）された利用者にも、来年は施設の行事（納涼祭など）の連絡を行い、今後も継続的な関わりを持てる様に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族面会時に今までの生活ぶりを質問したりして、一人ひとりの希望する暮らしに出来るだけ副えるように努めている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は利用者の表情、会話、行動等から把握し、その思いが叶うように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活暦を参考にし、今までされていた生活習慣（家事全般や農作業等）を大切にし、サービス利用に努めている。	※	ベランダにて、プランターで野菜等を栽培し、収穫して喜びを一緒に共有している。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎朝、バイタル測定を行い身体の状態を把握し、申し送りにて、その日のスタッフ全員が情報を共有する様に努めている。	※	共有する情報をスタッフ用の申し送りノート等を作成し、情報の共有が出来る様に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人が心地良いと思える事を見つけ、その人に合ったケアを行える様に、本人や家族と話し合い利用者一人ひとりにあった介護計画を作成している。 (外部評価) 月1回のケアカンファレンスで、利用者や家族の思いを反映しながら、職員同士が話し合っ介護計画を作成している。時には家族にも話し合いに加わってもらい、計画作成に役立てている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月に一回ケアカンファレンスを行い、利用者にあった介護計画を見直し、反省点を克服できるように介護計画変更時に十分に話し合いを行っている。 (外部評価) 月1回のケアカンファレンスでチェックし、必要時には見直している。また、利用者や家族の状況に変化が生じた場合等は都度見直している。3か月に1回、計画のモニタリングを行い、現状に合うよう見直すことにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・業務日誌等に記入し、実践出来る事は職員で共有して、見直していく様に努めている。	※	個別の気づきや工夫は情報をこまめに伝達する事で発見す事が出来ると思うので、情報を交換する時間を作る様にしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 面会時に勤務している職員が、現在の心身の状態を報告して、ケアに対する希望等を聞くように努めている。 (外部評価) 利用者の急な受診、冠婚葬祭、墓参り、家族のホーム内での宿泊等、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。	※	面会時や電話でのご家族の希望や要望を聞くのではなく、ご本人からも日常生活や外出時等の日々の生活を通して希望や要望を聞きだせるように努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議等の場で、協力をお願いしているがまだまだ不十分であると思う。しかし、消防や教育機関に関しては十分な協力を得られていると思う。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 現在のところ、他のサービス関係者との話し合いをする機会がほとんどない。その為、必要性があれば他のサービス関係者との話し合いに対応するように努めたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 当グループホームは、介護予防に対応しているので、今後は支援センターと連携して行ける様に努めたい。	※	運営推進会議等で情報交換を行い、今後は協働できる体制を築けるように努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前からかかりつけ医が居る利用者の希望を大切にしている。グループホームのかかりつけ医への変更も本人及びご家族と相談して適切な医療が受けられるように支援している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診には多くの場合、職員が付き添うことにしている。また、運営者である医師の往診が月に2回行われている。利用者や家族の希望により、市の健康診断を受けることも可能である。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 提携医療機関（主治医）に日々の状態を報告している。また、往診時にも日々の変化の報告を行っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置し、利用者個人個人の体調に合った毎日の健康管理（バイタル測定・検温等）を行っている。また、毎週提携している医療機関より看護師が訪問している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、面会に行き安心して頂ける様にしている。また、医療機関と情報交換を行い、早期退院が出来るよう努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に、ご本人・ご家族の意向を開き、医療連携体制の同意を得ている。 (外部評価) 重度化や終末期の対応は可能であり、このことを早い時期から利用者や家族にも説明し、話し合っている。看取りのマニュアルがあり、それに沿って実際的な対応を行うことにしている。医療的な支援が必要な場合は、訪問診療や訪問看護で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今まで経験してきた事を生かして、重度化や終末期の利用者が日々をより良く過ごせるようにチームでの支援が行える当に努めている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご本人に自宅やグループホームから別の居所に移り住む際に、前もって居所先を訪問して、新しい居所先の職員や利用者にとって安心して移り住めるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 記録等は各利用者の頭文字で記入し、フルネームで記さないように徹底している。また、言葉かけは利用者には不快な思いをさせないように努めている。 (外部評価) 利用者の着替えや排泄時等に配慮して居室のベッド脇にカーテンを設置したり、食べこぼしをさりげなく片づけるなど、一人ひとりの誇りやプライバシーに留意している。記録類は個人情報保護に配慮し、事務室の戸棚に保管している。	※	言葉かけを行う際に、利用者一人ひとりの誇りを傷つけない(言葉による虐待)様に、スタッフ全員が配慮している。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望や思いを表出できるように、利用者一人ひとりのわかる力に合わせて説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合った過ごし方が出来る様に、時間に捉われずに支援出来る様に努めている。 (外部評価) 利用者によって起床時間や朝食時間は異なるが、それぞれに合わせた支援をしている。また、ゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守り、散歩したい時に一緒に出かける等、一人ひとりのペースを大切にした対応をしている。	※	利用者一人ひとりの希望に沿ったケアが出来ているとは思えないが、利用者個人個人のその人らしい暮らしが出来る様に、今後も取り組みに努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 身だしなみは、職員全員がその度、気を付ける様に努めている。	※	今後は、好きな色や柄など、おしゃれに関心があることも見つけ、生活に取り入れたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生者のいる月はその方が喜ばれる様に好きな物を作ってお祝いしたり、その季節にあった献立を立てている。 (外部評価) 利用者の好きなものを取り入れた献立をたて、食事を楽しめるよう心がけている。時間がかかっても自力で食べられる利用者を見守り、食べこぼしの場合はさりげなく片づける等の支援をしている。利用者と職員と一緒に食事を作り、同じ食事をとり、後片付けをしている。	※	調理の下ごしらえ(野菜の皮むきなど)や配膳や後片付けを手伝って頂いている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、お酒やタバコ等の持ち込みの希望はありません。おやつは、ご本人が望む量だけ持って頂いています。	※	時々、ご本人の持っているおやつの確認を行っています。(賞味期限等の確認の為)

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ご本人の身体機能に応じた支援を行っている。トイレ誘導の際の声かけは、無理強いをするような声かけは行わず、ご本人が行きたがらない時は時間を置いて、再度声かけを行う様に心がけている。	※	夜間トイレの位置が分からなくなる事があり、トイレ以外の場所で排泄をされる事があり、自室にポータブルトイレを設置する事によってトイレ以外で排泄をする事がなくなりました。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の曜日や時間はご本人の希望に合わせている。現在、夜間の入浴を希望される方はいないようです。 (外部評価) 入浴時間は基本的に昼間の時間帯としているが、希望があれば朝風呂も夜間の入浴も可能としており、入浴を楽しめるよう柔軟に対応している。	※	入浴の際に湯船に浸からなかった方が湯船に浸かって、入浴が気持ちいいものだと思っていただいて入浴を嫌がる事がなくなりました。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、共有スペース（フロア）で昼寝をされたりと利用者一人ひとりの生活習慣を大切にし、その人に合った支援を行っている。	※	夜間、眠れず他の方の眠りを妨げる様な苦情があった際は速やかに対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ベランダにプランターで菜園を作って水遣りや草引きをして頂いたり、在宅でされていた簡単な家事（洗濯物を干したり、たたんだりなど）を行う事で、一人ひとりの生活歴を生かした役割を持って頂いている。 (外部評価) 散歩、買い物、車での遠出、習字、リハビリ体操、デイサービスとの交流、芋掘り、菜園の草ひきや水やり、調理、鯉の餌やり、洗濯物を干し、洗面台の掃除等、一人ひとりの楽しみごとや役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出行事などの際は、ホームにて預かっているご本人のお金を持って出かけるようにしている。また、ご本人の希望で金銭の所持を希望されている時は、ご家族と相談して少ない金額を所持して頂いている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 職員と一緒に生ゴミを捨てに行ったり、天気の良い日は散歩に出かけたりの支援を行っている。 (外部評価) 一人ひとりの希望により、近所を散歩したり、近くの道の駅やコンビニへ買い物に行ったり、行事で花見や紅葉狩りに出かけたり、地域のごみ置き場にごみを持って行く等、戸外に出かける機会を多くもてるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 施設での行事で外出で遠出したりしている。また、ご家族の面会時に外出をされたりとご家族と共に出かけられる機会はあると思われる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があった場合は、ご家族の居られる時間に出来る様になっている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時には個々の自室にて、ゆっくりと談笑できるように支援している。	※	ご家族の方も一緒にお茶やおやつをお出しして、一緒に楽しんで頂ける様にしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わなければ命に係わる危険を回避する為に行っていたが、現在は身体拘束を行わなくても良くなったので現在は行っていない。	※	以前、車椅子座位時に車椅子からのずり落ち転倒の危険があったが、車椅子からリクライニング式の子椅子に変更する事によってずり落ち転倒の危険が無くなった。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) グループホームの玄関のドアは施錠せず、いつでも出られるようになっている。ドアが開くとチャイムが鳴るので、その音で確認を行っている。 (外部評価) 運営者及び職員は鍵をかけないケアの意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。なお、玄関にはチャイムが設置されている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は共同スペース（フロア）にて過ごされているので見守り等で行い、自室にて過ごされている方も、こまめに訪室する事で利用者の様子を把握する事に努めている。	※	他の利用者との交流の為に、2階やデイサービスに降りれる事がある。その時は職員が同行している。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 補聴器を使用されている方が居られるため、紛失しないように就寝前に預かり、翌日お返しするようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒や誤薬の恐れのある方は、ご家族の意向や希望を取り入れ、ケアカンファレンスで話し合い、利用者一人ひとりに合った事故防止に取り組んでいる。	※	職員全員が対応できるように、事故を想定して対応の訓練や話し合いを行い、万全な対応が出来る様に努めた。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命講習は毎年行っている。また、緊急時のマニュアルを設置している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 毎年2回消防訓練を行い、非難経路や避難場所の確認は出来ている。地域の方々や消防との連携は取れている。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行い、夜間想定での訓練も実施している。大雨で裏山からの浸水があった時には、土嚢積みや地域の方が手伝ってくれることはあるが、災害時の日常的な協力体制は確立していない。	※ ※	火災時の訓練だけではなく、様々な災害を想定し訓練を行いたい。 職員のみでの対応の限界を認識し、日頃から地域との連携・協力体制を築いておくことが望まれる。運営推進会議や地域との交流を通して、地元住民や自主防災組織の協力が得られるよう話し合い、一緒に訓練を行う等の取組みを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居契約時に説明を行い、理解していただけるように努めている。利用者に変化があった時は、ご家族と相談して対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝、バイタル測定を行い、医療提携機関（主治医）に報告して対応している。	※	毎朝、職員に申し送りをして、職員全員が情報を共有できる様に努めている。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方された内服薬や外用薬の説明書を綴って、いつでも確認が出来る様になっている。また、説明書のない場合は、薬事辞典等で調べられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の利用者には腹部マッサージを行ったり、食事に野菜や穀物などを多く取り入れるようにしている。水分の摂取量も把握できるように水分チェック表を作成している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは声かけを行って口腔ケアを行っている。食後の口腔ケアが習慣になっている方は、口腔ケアを行ったか聞くだけになっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量は水分チェック表を作成し、摂取量の確認を行っている。一日の水分摂取量を1000ccを目安に行っている。 (外部評価) 食事の摂取量や水分量は毎回把握している。自力で食べる利用者を温かく見守り、食事を中断した方にはさりげなく促し、利用者の状態に合わせて食態を工夫する等、一人ひとりの状況や力量に応じた支援をしている。職員が献立委員会をつくり、栄養バランス等をチェックしている。	※	水分チェック表では一日の摂取量に届いていない事があるが、食事内の汁物等を含めると目安の摂取量は取れていると思われる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 毎朝、清掃時に次亜塩素酸ナトリウムを使用して、床や手すり等を清掃している。また、外出や食事前などには手洗い等を行う様になっている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食事で使用したまな板や包丁、布巾等も同じく次亜塩素酸ナトリウムで漂白、消毒を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ホームの玄関に花を生けて、誰もが親しみやすい様に努め、アットホームで心地よさを感じて頂ける様に努めている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者個々の自室に、外出や行事の写真を貼り付けたりし、共同スペースの壁には季節に応じた物を飾って、居心地よく過ごせるようにしている。 (外部評価) ホーム内は明るくゆったりして、くつろげる雰囲気がある。居間は、畳の間に炬燵、大きめのテレビ、見やすい時計やカレンダーがあり、季節の花、行事の写真や習字等を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。台所、浴室、トイレは清潔感があり、気になる匂い等はない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共同スペースには畳のスペースがあり、そこで昼寝をしたり、職員と一緒に作業して過ごしたりしている。独りになりたいときはいつでも自室に戻って過ごせる様になっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居契約時に、必要な物を説明する際に、ご本人の使い慣れた物を持ってきて頂いても構わないと説明を行っている。 (外部評価) エアコン、ベッド、タンス等が備え付けてあり、その他、利用者が使い慣れた寝具、時計、お気に入りの人形やぬいぐるみ、写真等を持ち込み、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、清掃時には窓を開けて換気を行っている。その日に気温や天気によって冷暖房を入れたりして、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーになっており、本人の能力の応じ、廊下やトイレ、浴室等の手すりを使用して自立した生活が送れるようにしている。	※	ベランダや非常階段に出る時は、段差がある為常に見守りを行っている。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個々の自室入り口には、名前を大きく掲示して自室の確認が行える様になっている。また、自室からトイレの位置が分からない方は廊下にテープで道標をするなどしている。	※	混乱や失敗は今までもあったが、悪くなるばかりであるが、その都度その場での対応に努めたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダではプランターで菜園を作ったりし、水遣りや草引きを行っている。また、収穫時期には、利用者に収穫を行ってもらい、収穫する楽しみを味わって頂いている。	※	毎年恒例の芋ほりは、利用者の楽しみになっているので今後も続けていきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の日々の会話の中から、希望や意向を掴み援助を行っている。意思疎通の困難な利用者も表情の変化から希望や意向を掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員と一緒に調理の下ごしらえを行ったり、洗濯物をたたんだりと一緒に過ごす場面は多い。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	フロアでテレビを見て過ごしたり、新聞を読んで過ごしたりと利用者個々のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者個々の生活暦や経験を十分に発揮出来る様に、役割を持ってもらうなどの支援を行っている。役割を持つことで「まだまだ頑張れる」という意欲を持って頂けている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出時に全員参加を促すも、外出が嫌いな利用者もおり外出する人数は少ない。外出には車椅子の方も参加し、外の空気に触れる事で笑顔が見られるので全員参加が出来る様に努めたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の希望する医療機関での受診があれば受診を行っている。提携医療機関（主治医）より毎朝電話があり、状態の変化が見られたときはその都度報告を行っている。定期的に往診にも着て頂くので不安なく過ごせていると思われる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者ご本人やご家族からの要望にすぐに応じるように努めている。しかし、すぐに応じる事が出来ない場合は、事情を説明している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時やお電話があった際に、日々の生活の状況の報告を行い、不安な事や求めている事を聞くように努めている。不安な事や求めている事があれば、一緒に考え、解決出来る様に努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	外部の方々との交流はまだまだ少ないが、デイサービスの方々や2階の方々との交流は行えている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	大雨の多い時期には地域の方に声をかけて頂いたり、地域行事への参加の声かけなどを頂いている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間の人間関係に問題は見られない。介護上で分からないことがあれば、職員同士で話し合っ解決している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者との日々の会話の中で感謝の言葉が聞けたりと満足されているように思える。意思疎通の困難利用者の方は表情の変化では満足しているか判断する事が難しい事がある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族と職員の信頼関係は築けていると思われる。こちらからの要望や希望等の問いかけに対して、要望や希望を言われる方があまりいないように思えます。今後は要望や希望があった時には、要望や希望に副えるように努めたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)